

平成 18 年度「基礎・基本」定着度調査の結果について

県教育委員会では、本県の小・中学生が基礎学力（社会生活を営む上で最低限必要な知識や技能等）が、確実に身に付けているかどうか調べるために、「基礎・基本」定着度調査を実施しています。小学校5年生、中学校1・2年生が対象で、今回が3回目の実施となりました。

市内の児童・生徒の学力状況等を知っていただくために市民のみなさまに広くお知らせし、今後の学力向上に一層努めていきたいと考えています。

●「基礎・基本」定着度調査のねらい

学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な内容の定着について、県内すべての小・中学校が確かなデータを基に自校の課題を明確にし、個に応じたきめ細やかな指導方法の充実を図るために実施するものです。

●「基礎・基本」定着度調査の結果

①各学年の教科別の正答率（%）※正答率＝正答数÷問題数×100

学年	教科	国語	社会	算数・数学	理科	英語
小5	鹿屋市	76.2	81.1	73.0	73.8	
	肝属地区	75.2	80.3	72.0	72.7	
	県全体	75.4	81.3	73.2	72.8	
中1	鹿屋市	70.3	61.3	65.2	62.1	64.3
	肝属地区	70.7	62.0	65.5	62.7	65.7
	県全体	72.3	63.3	67.5	64.8	68.5
中2	鹿屋市	68.7	66.0	63.4	59.4	55.8
	肝属地区	68.1	65.4	64.3	60.0	55.5
	県全体	70.9	66.9	68.8	63.4	58.3

※基礎・基本が身に付いていると思われるのは、7割以上の正答率です。

◇小学校5年生では、7～8割程度の正答率を示し、概ね基礎・基本は定着しているようです。

◇中学校1・2年生では、6～7割程度の正答率で、特に、2年生の理科と英語が6割に満たず十分ではありません。

②各教科で特にのぼすべき学力等

教科	各教科で特にのぼすべき学力等
国語科	<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容を的確に押さえ、要旨をとらえたり主題を考えたりしながら読む力 目的や意図に応じて、自分の考えを書く力
社会科	<ul style="list-style-type: none"> 資料から情報を読み取り、活用する力 基本的な用語や地図記号等の理解
数学科	<ul style="list-style-type: none"> 問題文を読み取り、式を立てる力 文字式について、目的に応じて計算したり変形したりする力 関数関係を見だし、式等で表す力
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察・実験器具を正しく操作する技能 実験結果を比較し、類推していく科学的な思考力
英語科	<ul style="list-style-type: none"> 単語等の語い力 基本的な文型を用いて、話したり書いたりする力

◇左表の内容について、重点的な指導や学力の定着を図るための工夫が必要であり、各学校で具体的な手だてを講じていきます。

●「基礎・基本」定着度調査結果に対する手だて

- 昨年度の取組 1月の調査実施後、各学校では誤答傾向の等の分析を行い、定着が不十分な点について、補充の指導や個別の指導を行いました。
- 今年度の学力向上 各学校は、定着が不十分であった内容について、原因を分析し、授業改善等に具体的に取り組んでいきます。
- 家庭での学習習慣 家庭学習は、学校で学んだことを定着させるために大切です。家庭学習の充実に向けて、学校と家庭・地域が一体となって取り組めるように、働きかけを行っていきます。

【問い合わせ】 市学校教育課 ☎ 0994-31-1137